

ひまきゅう
虹色がーでん美胡
ふじやま さだみ
藤山 貞美 さん (40歳)

障がいのある人や子育て中の人など、さまざまな人が時間に縛られず働いている「虹色がーでん美胡」。きゅうり栽培を通して就労支援を行っている藤山さん（須木出身）に話を聞いた。

誰もが楽しんで働ける場所を作る

「色々な方のための就労支援の大農園を作りたい」。そう話すのは、須木下田できゅうり栽培をしている藤山貞美さん（40歳）。

農家になる前は保育士などを経験し、多くの子どもたちと関わってきた。

「見た目からは信じられないと思うけど、子どもたちが好きなんです」と笑って話す藤山さん。農業を始めるきっかけは放課後デイサービスでの経験だ。

「障がいのある子が就職時に県外に出ないといけないうことがありました。ご両親がその事情を涙ながらに話してくれた時、小林でも障がいがある子を含め、誰でも受け入れられる場所を作りたいと思いました」。そう決意したという藤山さんは農福連携※と呼ばれる障がい者雇用を行う農業を始めた。

藤山さんは「保育士で見

てきた世代が就職するころ。苦しんでいるのであれば、こういう場所もあるよと伝えたい」と話す。

そうした就労支援を続ける藤山さんは、現在農家としての作業に加え、近年の燃料費高騰や市場のセリ価格の上下に備えるため早朝の新聞配達も行っている。

1日働き続ける生活は大変だが苦ではないという。

「以前豪雨で畑が全部水に浸り、収入がゼロになったことがある。当時は本当に絶望したが、その時以上の苦しみはない。人間やればできる。今の苦しみもいつか笑い話になると思っています」と明るく話す。

ゆくゆくは6次産業化も目指しているという藤山さん。「農業に加え加工業や販売など幅を広げ、さまざまな人が楽しみをもって働ける場所を用意したい」と今後の展望を話す。

※担い手不足や高齢化の進む農業分野で、障がいがある人の就労や生きがいづくりの場を生み出す取り組み

須木下田の駐在所裏にあり、写真にあるのぼりが目印の藤山さんのハウス。当日朝に収穫したばかりのきゅうりの直売も行っている

早朝の暗いうちからヘッドライトを付けて収穫することもあるという藤山さん。自然豊かな環境で育てるきゅうりの豊かな風味を味わって欲しいと話す

